

Laughter is the best medicine

～笑いは最善の薬～

1月23日に看護医療・健康類型の集大成となる「探究応用」生徒発表会を行いました。以下は各班の生徒の感想です。

【看取り班】

看取り班として最後の活動である劇は、今まで経験してきたどのイベントよりもしんどかったです。これまでのイベントは、やりたい人がやる自主性でしたが、今回は皆で協力して1から作り上げなければなりませんでした。私は劇のリーダーになっていたの、シナリオ作りから関わっていました。そして、劇を練習する日程決め、衣装や大道具などの大まかな管理も行っていました。本番までの時間も少なく、看取り班は部活動に所属している人が多かったので予定を組むのにも不安が沢山ありました。1人ではうまく回せない、平等に皆に役割を振るよう努力しました。私はこれまで2回リーダーをした事があるので、皆の得意苦手を少しは把握しているつもりです。だから、この人ならこの役割が出来るだろうとその人に合った頼み事をするようにしました。しかし、頼んでも嫌な顔をされる事も多くありました。また、任せた役割がうまくいかず他の人から私にどうするんだと言われられることも多かったです。それが全て責められているように感じるようになり、最後まで責任者として務めることが出来ませんでした。その時は申し訳ないという気持ちより、もう辞めたいという気持ちが大きかったです。私がリーダーと

して動けなくなっても、直ぐに看取り班の副リーダーが皆を仕切ってくれて助かりました。本当に感謝しています。そのおかげで本番は練習してきた成果を発揮でき、成功できました。今でもこの劇の事を思い出すと苦しくなりますが、看取り班として最後まで活動できて良かったです。

今回、看取り班で劇をしてみて苦労したこともたくさんあったけど、発表が終わった後の達成感がすごく、みんなで頑張った良かったなと思いました。最初は、緊張して台詞が飛ばないかと非常に不安でした。しかし、1回セリフを言うとその後の出番はあまり緊張せずに出ることができました。他のみんなも練習以上の演技ができていて今までで1番すばらしい劇になったと思います。劇をしながら自分自身もACPについて学べる良い機会になりました。

【防災班】

今回の劇では、まずシナリオ作りに時間がかかりました。誰が作るのかとかどんな設定にするのか、など様々なことを班のメンバーと話し合いました。結果、朗読劇になった時は正直、悔しかったです。しかし、練習を重ねるうちにすごく良い感じにできあがったのでよかったです。当日も照明や立ち位置や音響の調節が上手いかない部分がありましたが、なんとか皆で協力

